

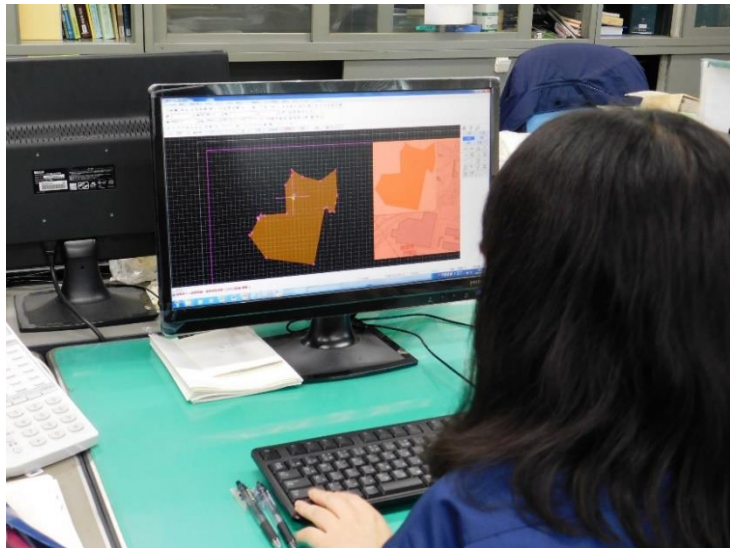
コンクリート構造物の
更新・修繕・耐震化

建物の増改築・
更新・修繕・耐震化

管路の更新
・修繕・耐震化

土木職・
建築職

共通の業務： 設計・計画・調査 / 委託監督・工事監督



設計・積算業務

設計・積算業務

—設計・積算業務とはどんな業務ですか？

歩掛（材料費・労務費・機械経費など）に基づき工事費を構成する費用を積み上げ、全体の工事費を計算する業務のことです。

—なぜ設計・積算業務が必要なんですか？

地方公共団体が発注する公共工事は地方自治法により、契約方法が定められ、設計書、仕様書による予定価格の作成が義務付けられているからです。

—設計・積算業務ではどんなことに注意していますか？

注意していることは、主に3つあります。まず1つ目は、工事目的を明確に理解することです。2つ目は、内容が企業団、受注業者双方にとってわかりやすいものにすることです。3つ目は、ルール・基準に従い、誰が積算しても標準化された同じような積算となるものにすることです。

—設計・積算業務は年間に何本くらい受け持つのでしょうか？
配属場所や工事規模によりますが年間2本程度です。



水道プラントの 建築工事





工事監督業務



—工事監督業務ではどのようなことをするのでしょうか？

まず、工事に着手する前に工事請負人と契約内容を確認します。その後、請負人が作成した施工計画書の確認を行い、請負人と必要事項等について打合せをして工事が着手となります。工事が着手となりますと、施工状況の確認や工事現場の安全管理などの業務を行いながら工事が進んでいきます。施工状況の確認では、材料確認や工事施工の立会、工事施工体制の把握といったことをします。工事現場の安全管理は、工事現場の安全パトロールや点検を行い、未然に工事事務防止を図ります。その他にも必要に応じて、地域住民や関係機関との協議・調整や契約内容変更に関する対応といった業務もあります。工事が完成間近となると、完成検査を受けるにあたり、検査に必要な工事書類の準備をします。そして、いよいよ工事が完成となりますと、完成検査、工事目的物の引き渡しをもって工事監督業務が終了するという流れになります。

—工事監督業務において大切なことは何ですか？

多岐にわたる目的物の品質や施工方法、工事ごとの多様な施工条件といった知識。それだけでなく、請負人、地域住民や関係機関との協議・調整をしていく中で、交渉力や折衝力といった能力も必要です。

工事監督業務



計画調査業務



水道管路の調査

更新・修繕・耐震化に係る工事に先立って、
コンクリート構造物や水道管路などの調査を
行い、その調査結果をもとに工事の計画を策
定していきます。

調整池内の調査





建設課 土木職の一日

8:30～

課内打合せ

設計・積算
業務

設計説明

12:00 13:00

昼休み

工事業者との
工程会議

現場立会・
現場確認

～17:15

書類整理

課内打合せ